

平成 16 年 3 月

文部科学省専修学校教育振興室

専修学校における日本版デュアルシステムについて

【日本版デュアルシステムとは？】

「日本版デュアルシステム（実務・教育連結型人材育成システム）」とは、企業実習と教育・職業訓練を組合せて実施することにより若者を一人前の職業人に育てる実践的な教育・職業能力開発の仕組みであり、企業での就業と学校での教育を同時並行で行うシステムのことである。本システムでは一定の雇用関係（正規雇用に限定しない）を結び、企業等で就業しながら、「教育・職業訓練」を専修学校で行うものである。

専修学校におけるカリキュラムの例としては以下のようなものが考えられる。

例 1) 月・水・金 専修学校での学習
火・木 企業での就業

例 2) 月～金の午前 企業での就業
月～金の午後 専修学校での学習

日本版デュアルシステムにおける企業での実習も、課程の修了に必要な総授業時数の二分の一を超えない範囲で専修学校における授業科目の履修とみなすことができます。

（参照）専修学校設置基準（昭和 51 年 1 月 10 日文部省令第 2 号）第 10 条

専修学校が授業科目の履修とみなすことができる学修（平成 11 年 10 月 25 日
文部省告示第 184 号）

【日本版デュアルシステム導入のねらい】

専修学校における日本版デュアルシステムの導入は、若年者の勤労観、職業観の育成を図るとともに、企業ニーズに即応する実践力を付与するシステムを構築することをねらいとする。

【日本版デュアルシステム導入のメリット】

日本版デュアルシステムの導入については、以下のようなメリットがあると考えられる。

専修学校	<ul style="list-style-type: none">・生徒の就職率の向上・新たな教育システムの導入による専修学校教育の充実・活性化
生徒	<ul style="list-style-type: none">・より実践的な訓練の受講が可能となり、就職に有利・正規雇用の前にその職業への適性を見極められる・働くことの意義など職業観、勤労観の育成
企業	<ul style="list-style-type: none">・実践的な訓練を通じ、必要かつ良質な人材の確保が可能・能力・適性を見極めた上で正規雇用することが可能

【企業等との連携協力】

日本版デュアルシステムの導入にあたっては、専修学校だけではなく、企業実習を担う受入企業との協力関係が必要である。協力関係を持つ企業としては、すでに卒業生が就職している企業等相応の実績、パイプのある企業と協力して実施することが考えられる。また、各地域の商工会議所等産業界各団体と連携したり、各都道府県に配置されるデュアルシステムコーディネーター（ ）等との連携も考えられる。

厚生労働省の予算措置により、平成16年度は10都道府県程度に配置される予定。

【専修学校における若者の自立・挑戦支援事業】

前記を背景に専修学校における日本版デュアルシステムの導入を図るにあたって、専修学校での教育システムについては、そのカリキュラムや教材等がフルタイムの学生と違うものになると考えられるため、効果的な教育システムの研究開発が必要であると思われる。そこで、平成16年度新規事業の「専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業」により、他の先導的モデルとなるべく研究開発を委託事業として実施するものである。なお、本事業においては、上記の研究開発が目的であり、企業との連携を想定したカリキュラム等の研究開発についても対象とする。